



なぞって練習

息子や娘は母の態度を  
飽き足りない歯がゆい  
もののように思っ  
尻になっ  
世への未練をお見せす  
るよう  
俗縁のあつた方に惜し  
んで泣いていた  
はともかくもだがとい  
うよう  
を突いたり、目くばせ  
をしたりして兄弟ど  
うしで赤し合っていた。  
源氏は乳母を憐んで  
いた。

■ 参考

※ 肱【ひじ】

※ 憐れんで【あわ】

(青空文庫のフリガナより)